

慢性疾患患者の内服に対する意識調査

6階東病棟

○上田 理絵・吉川加奈子・竹内 真弓
安岡 未希・山崎 裕美・多田 邦子
楠瀬 伴子

I. はじめに

当病棟の入院患者のほとんどは慢性疾患で内服治療を受けている。慢性疾患において薬物療法は治療の中で特に重要な位置を占めている。そのため慢性疾患患者には長期に渡る確実な内服管理が必要となる。

入院中は正確な内服をしても、退院後の自己管理が不十分なため再入院してくるケースが多くみられる。退院後確実な内服ができないのは、内服に対する十分な知識を持っていないためと思われ、服薬指導が必要と考えた。

そこで今回私たちは、患者の服薬に対する理解・関心度を知る手始めとしてアンケート調査を行った。

II. 方法

平成8年8月～10月に腎疾患、膠原病、慢性関節リウマチで内服治療を受けている入院患者9名に質問紙によるアンケート調査を行った。

III. 結果及び考察

当病棟の入院患者の多くは腎不全、膠原病、糖尿病などの慢性疾患患者であり、入院を繰り返している。内服は疾病の進行に大きく関わっており、退院後の正しい内服管理が大切となってくる。今回の調査では、内服薬の種類は平均6.8種類であり、服用方法は1日2～4回に分けて内服し、1日おきに内服している薬もあった。

患者が内服を開始した時期は診断後1カ月以内と答えた患者が7名おり、内服期間が平均4年である。中には16年内服を続けている患者もいた。内服を始める前に説明を受けたかの質問に対し、全員が何らかの形で説明を受けたと答えており、内服に対する知識を得る機会があったと考える。どの様な説明をされたかの質問に対しては名前のみや名前・効用・副作用についてとまちまちであり、患者がどれだけ正確に理解して内服していたかははっきりしない(表1)。

家で薬を飲み忘れたことがあるかの質問に対しては9名中5名があると答えている。その理由としては仕事が忙しかった、ボーッとしていた、内服が

1日おきだったなどがあり、うっかり忘れたというケースであった。しかし、薬を飲み忘れることがあるからといって内服管理を家族に任せる、または家族の協力を得ることはしておらず、全員自分で管理していると答えている。管理方法については、飲む時間毎に分ける、袋に薬品名・効能を書くなどと工夫をしている(表2)。内服をして体が楽になった、飲まなかったら体がしんどくなると答えた患者もおり、自分の病気にとって内服が必要なことであると実感している患者もいた。内服がどのようなものかの質問に対し、生活の一部になっていると9名中5名が答えている(表3)。これらのことから内服を受容し、自分自身で管理していこうという姿勢がうかがえる。

内服をする事での不安については7名が副作用について心配と答えている。これはステロイド剤の内服が多いのも一つの理由と考えられる。

中原ら¹⁾は、『服薬指導の本質はまさにその患者が実施している薬物療法が患者さんにとって具体的にどんな利益になるのかを理解させ、服薬の自主管理が正しく行えるよう指導することにある』と述べている。入院中は治療に専念している患者の姿しか見てないが、退院し家庭に戻ればそれぞれの生活や社会的役割なども違う。今回の調査では患者は常に薬への期待と副作用への不安を持ちながら日常生活を送っていることが分かった。内服管理に当たっては薬についての理解度、個々の日常生活パターンや社会的背景が大きく関わっている。それらのことをふまえた上で薬がいかに患者にとって利益になるかを理解させることが必要である。効果的な内服指導は医師、看護婦、薬剤師が連携して行うことが必要である。その中で、看護婦の役割は患者の生活背景に目を向けた支援を考えることにあると思われる。社会復帰と内服治療の両立を支援して行くために個々の日常生活パターンや社会的役割を把握していくことが必要である。内服を受け入れつつも常に副作用についての不安を持っている患者の心理を理解することが必要と考える。

表1 内服薬の説明の時期・内容(複数回答あり)

時期	内服開始前(6名)	薬変更時(1名)	無回答(2名)
内容	飲み方(3名)・薬品名(7名)・効用(4名) 副作用(7名)・無回答(1名)		

表2 内服薬管理方法(複数回答あり)

飲む時間毎にまとめる(6名)
それぞれに飲む時間を書く(3名)
病院の袋で飲むたびに出す(2名)
それぞれに薬品名を書く(1名)
それぞれに効能を書く(1名)

表3 内服薬の受止め方(複数回答あり)

生活の一部(5名)	・食事と同じ(4名)
慣れてしまった(3名)	・緊張感がある(2名)
拘束感があり苦痛(1名)	

IV. おわりに

今回の研究により、患者の内服に対する考えや、家庭での内服管理の方法を知ることができた。今後は、内服に関する不安を軽減させながら家庭での生活パターンや社会的役割などを考慮し、個別的な内服指導を行っていきたい。

引用・参考文献

- 1) 中原保裕：臨床に生かしたい薬の話，学研，P4，1989.
- 2) 守安洋子：服薬指導とフォローの仕方，へるす出版，P3-5，1995.
- 3) 内山英二：くすりとくすりで起こること，エキスパートナーズ，VOL18，NO. 10 P40，1994.
- 4) 林 幸男：入院患者の服薬指導，自己管理中の服薬状況と患者の質問内容，JJSH，VOL30，NO. 10，P43，1994.
- 5) 浅香清一：薬袋利用による服薬指導と薬剤の自己管理 老化と疾患，VOL18，NO. 4 P618，1995.
- 6) 山口裕美：服薬自己管理確立をめざして 患者調査結果から，医療増刊，P807，1994.
- 7) 片渕君恵：薬の自己管理に向けて意識調査を中心に，精神保健，P116，1995.